

国際シンポジウム 「パラリンピック・ムーブメント- レガシーを通して考える 2020 年東京大会のあり方」

1964 年に第 2 回夏季パラリンピック大会が、東京で開催されました。以来、パラリンピックの意義や様態は時代とともに変わってきています。パラリンピックがどのように発展してきたのか、また、各大会が残したレガシーは何かといった点を振り返り、パラリンピックの理念と課題、そして将来の展望を討議します。

- 日時：2015 年 12 月 19 日 (土)
13:00 ~ 17:00 (受付開始 12:30)
- 会場：筑波大学東京キャンパス 文京校舎 134 教室
東京メトロ丸ノ内線茗荷谷（みよがだに）駅下車「出口 1」徒歩 5 分
- 言語：英語、日本語（同時通訳付き）
- 参加費：無料

<プログラム>

- 13:00 開会の挨拶 小倉 和夫（日本財団パラリンピック研究会代表）
- 13:05 基調講演
「パラリンピックの現状と課題」
山脇 康（日本パラリンピック委員会委員長）
「2016 年リオパラリンピック大会とブラジルの政策—障害者の社会包摂を見据えて」
アウグスト・ペスタナ（駐日ブラジル大使館政治部参事官）
- 13:45 第 1 部「これまでのパラリンピック大会におけるレガシー」
1. 長野大会（1998） 小倉 和夫（日本財団パラリンピック研究会代表）
2. シドニー大会（2000） トニー・ナー（オーストラリアパラリンピック委員会・アドバイザー）
3. ロンドン大会（2012） イアン・ブリテン（コベントリー大学リサーチフェロー）
- 15:05 第 2 部「これからのパラリンピック・ムーブメントのあり方」
1. パラリンピック教育 齊藤 まゆみ（筑波大学准教授）
2. メディアの役割 藤田 紀昭（同志社大学教授）
3. 国際支援によるムーブメント 山口 拓（筑波大学助教）
- 16:05 総合討論
コーディネーター 真田 久（筑波大学体育専門学群長）
指定討論者 間野 義之（早稲田大学教授）
全パネリスト
- 16:55 閉会の挨拶 真田 久（筑波大学体育専門学群長）

スピーカーは都合により予告なく変更となる場合がございます。

メール件名：12 月 19 日シンポジウム参加申込み
参加申込みアドレス：para@ps.nippon-foundation.or.jp

主催



共催



後援

東京都
朝日新聞社

協力

公益財団法人東京オリンピック・
パラリンピック競技大会組織委員会

参加申込み

メールの件名を「12 月 19 日シン
ポジウム参加申込み」とし、（1）
お名前 （2） フリガナ （3） ご所
属・役職 （4） 電話番号を明記
してお早めに para@ps.nippon-
foundation.or.jp 宛に、メールに
てお申し込みください。返信を持って
受付とします。定員になり次第、締
め切らせていただきますことをご承
ください。

連絡先

日本財団パラリンピック研究会
〒107-0052
東京都港区赤坂 1-3-5
赤坂アビタシオンビル 4 階
Tel：03-5545-5991
（平日 9:00-17:00）

登壇者プロフィール（登壇順）



山脇 康 (Yasushi YAMAWAKI)

日本パラリンピック委員会（JPC）委員長および国際パラリンピック委員会（IPC）理事。日本郵船株式会社の副社長、副会長を歴任。2011年に公益財団法人日本障がい者スポーツ協会の理事に就任し、12年からJPC副委員長を務め、13年よりIPC理事、14年よりJPC委員長。



アウグスト・ペスタナ (Augusto PESTANA)

駐日ブラジル大使館参事官。サンパウロ大学法学部卒、リオ・ブランコ外交官養成学校修了。弁護士事務所勤務、ブラジル有力紙Folha de S. Paulo紙の政治部記者を経て、96年にブラジル外務省入省。西欧、EU担当課長、原子力担当局長、リオ・ブランコ外交官養成学校准教授、外交官試験委員会メンバーを経て、現職。



小倉 和夫 (Kazuo OGOURA)

日本財団パラリンピック研究会代表および日本財団パラリンピックサポートセンター理事長。東京大学法学部卒。62年外務省入省。駐ベトナム・韓国・フランス大使、独立行政法人国際交流基金理事長、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会事務総長歴任。



トニー・ナー (Tony NAAR)

オーストラリアパラリンピック委員会（APC）アドバイザー。メルボルン大学でスポーツ科学を専攻、83年には文部省の奨学生として、筑波大学大学院留学。2000年3月から同年10月に開催されたシドニーパラリンピックまで、APCのスポーツプログラムを担当。その後15年間、APCの上級経営幹部を務める。



イアン・ブリテン (Ian BRITTAIN)

英国コベントリー大学ソーシャル・ビジネスセンター、リサーチフェロー。研究分野は、障害とパラリンピックスポーツの視点から見る社会的、歴史的、スポーツマネジメント。国際ストック・マンデビル車椅子スポーツ連盟執行委員会メンバーを務め、現在、国際車いす切断者競技連盟アドバイザー。



齊藤 まゆみ (Mayumi SAITO)

筑波大学体育系准教授。筑波大学大学院体育研究科修了。代表を務める「アダプテッド体育・スポーツ学研究室」には30名の大学院生、学群生が所属している。専門はアダプテッド・スポーツ科学であり、現在の研究テーマは、デフスポーツ・パラスポーツにおける競技力向上、アダプテッド体育・インクルーシブ体育。



藤田 紀昭 (Motoaki FUJITA)

同志社大学スポーツ健康科学部スポーツ健康学科教授。筑波大学大学院体育研究科修了。日本福祉大学教授などを経て、現職。研究分野は、体育学、障害者スポーツ論。内閣府障害者政策委員会専門委員を務め、現在、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長。



山口 拓 (Taku YAMAGUCHI)

筑波大学体育系助教。同志社大学大学院総合政策科学研究科公共政策コース修了。2006年～2012年JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国小学校体育科教育支援」プロジェクトマネージャーを経て、現職。スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムの顧問も務める。



真田 久 (Hisashi SANADA)

筑波大学体育系教授。同体育専門学群長。筑波大学大学院体育研究科修了。博士（人間科学）。2010年設立のIOC公認「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム」事務局長として、附属学校11校とともにオリンピック・パラリンピック教育の展開に携わる。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与をはじめとした数多くの要職を務める。



間野 義之 (Yoshiyuki MANO)

早稲田大学スポーツ科学学術院教授。東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。株式会社三菱総合研究所勤務後、早稲田大学人間科学部助教授を経て現職。専門はスポーツ政策。博士（スポーツ科学）。スポーツ庁スポーツ政策調査研究有識者会議座長、東京都スポーツ振興審議会委員、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会参与などの要職を務める。